

## 「韓国でタクシー乗車拒否されて韓日の歴史を学び始めた」



日本人として安重根(アン・ジュンゴン)義士記念事業に携わっている小松昭夫氏(69)は1944年に島根県で生まれた。島根県は「竹島(韓国名:独島)の日」を制定し、独島を同県の島だと主張している。韓国では独島侵奪の中心と認識されている島根県議会は6月、安倍内閣に対し「日本軍『慰安婦』問題への誠実な対応を求める意見書」という議案を可決した。島根県議会のこうした動きは、日本の「戦後責任」を果たさなければならないとして韓国・中国を行き来し謝罪と寄付を続けてきた小松氏の行動と同様、複雑なものに思えた。

8月30日、ソウル・汝矣島の国会議員会館で会った小松氏は「本来、対立と矛盾がなければ変化もない」と話した。韓日が今、葛藤しているのは新たな変化のために避けられない過程だという。そしてヘーゲルの弁証法の話をした。しかし、小松氏は自身が経営する会社の新入社員や島根県民を韓国に連れてきて、独立記念館を見学させ「歴史を知るべきだ」と強調したことは言わなかった。島根県議会が制定した「竹島の日」に合わせ、日本で安重根義士に関する学術セミナーを開催したことに特に言及しなかった。

小松電機産業の代表であり、財団法人人間自然科学研究所の理事長も務める小松氏は、2008年に安義士記念館の建設基金として100万円を寄付、それより前の1997年には独立記念館にも100万円を寄付している。「北朝鮮の子どもを救うのに役立ててほしい」と大韓赤十字社に500万円を渡したこともある。白凡記念館や西大門刑務所といった韓国の独立運動ゆかりの地はほとんど訪れた。一般的な会社経営者だった小松氏は若いころ、韓国で日本人だという理由でタクシー乗車を拒否されてショックを受け、歴史の勉強を始めたという。「最近のように韓中日の確執が激しくなっている中では、安重根という世界的な平和思想家の考え方をさらに研究・継承しなければならない。韓国では安義士に関する研究が足りないようだと話した。

小松氏は24日、島根県議会の「日本軍『慰安婦』問題への誠実な対応を求める意見書」決議を支持すると表明した大邱弁護士会の関係者を島根県に招待した。招待訪問団には元慰安婦も含まれている。日本の右翼が訪問に反対するデモを行ったが意に介しなかった。「私は戦後世代で戦争責任はない。だが、戦争を起こした国の国民として戦後も責任を尽くす」と話す。

小松氏は普通の日本人だ。産業振興に功績があったとして国土交通大臣表彰などを授与されたことを語るときは「天皇陛下にいただいた」と話した。慰安婦問題に関連して小松氏は「日本が慰安婦問題を本当に反省しようとするなら、韓国も今のように日本人に恥をかかせるような方法ではなく、実質的な解決が行われる方向へ運動のやり方を変えてほしい」と主張した。「和解と許し」はお互いの立場を理解することから始まるというのが小松氏の考えだ。

鄭佑相(チョン・ウサン)記者

## [安重根義士記念事業をする日本人小松昭夫さん訪韓]

“韓・中・日葛藤深まる時期…世界的平和思想家の安重根をもっと研究して継承すべきだ  
慰安婦問題反省するためには、'恥をかかせるより' 和解と許し' で解いていくべきだ

日本人として安重根義士記念事業をしている小松昭夫(69)さんは1944年日本島根県で生まれた。島根県は'竹島の日'を制定し、独島を日本領だと主張する地方自治体だ。韓国に独島侵奪の中心に認識されている島根県議会が6月の安倍内閣に“慰安婦強制動員の事実を認めて政府が問題解決に乗り出すべき”という決議文を採択した。島根県議会のこのような行動は日本の'戦後責任'を全うしなければならないとし、韓国、中国に渡り謝罪と寄付を続けてきた小松さんの行跡と同様に複雑に見えた。

30日、ソウル汝矣島(ヨイド)国会議員会館で会った小松さんは“もともと対立と矛盾があってこそ変化がある”と述べた。韓・日が対立することは新たな変化のための避けられない過程だとした。彼はヘーゲルの弁証法の話だとした。しかし、小松さんは新入社員たちと島根県住民たちを韓国につれてきて独立記念館を見学させて“歴史を知らなければならない”と強調した事実は出てこなかった。島根県議会が制定した'竹島の日'に合わせて日本で安重根義士に関する学術セミナーを開催したことも特に言わなかった。

小松電気産業代表であり、人間自然科学研究所の理事長を務めている小松さんは2008年安義士記念館建立基金に100万円を寄付し、1997年には独立記念館にも100万円を寄付した。北朝鮮の子どもを助けるために使ってほしいとして、韓国赤十字社に500万円を出したこともある。白凡記念館、西大門刑務所など韓国独立運動の遺跡はほとんど訪問した。平凡な事業家だった小松さんは、若い時に韓国で日本人という理由でタクシー乗車を拒否されてから衝撃を受けて歴史の勉強を始めた。彼は“最近のように韓・日・中対立が深まるなかで安重根という世界的な平和思想家をもっと研究・継承しなければならない”、“韓国で安義士に対する研究が不足している”と述べた。

小松さんは24日、島根県議会の慰安婦決議案採択を支持するという、大邱(テグ)弁護士会関係者たちを島根県に招待した。招待の訪問団には従軍慰安婦も含まれた。日本の右翼の訪問に反対するデモがあったが気に留めなかった。彼は“私は、戦後世代で戦争責任はない。しかし、戦争を起こした国家国民として戦後にも責任を果たす”と述べた。

彼は普通の日本人だ。新規産業振興の功労により勲章(藍綬褒章)を受けたという話をする時は“天皇陛下から頂いたとした。慰安婦問題と関連して、小松さんは“日本が慰安婦問題を本当に反省するためには、韓国も今のように日本人に恥をさらさせるという方法よりは実質的な解決が行われる方向に運動方式を変えたらいいね”とした。'和解と許し'はお互いに立場を理解することから始まるということが彼の考えだった。